

冷静。でも気持ちは熱い



たかた しんのすけ
高田 伸之介くん
(15歳・境の松)

- 趣味 体を動かすこと
- 自分の長所 平常心を保てること
- 得意なこと 空手の型
- 今一番やりたいこと アメリカに行ってみたい
- 家族に伝えたいこと 将来の夢に向かって頑張るので応援よろしくお願いします

菊陽人 りさーち



掲載を希望する人は、はがきか電子メールに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記し、〒869-1192 菊陽町役場総合政策課 sogoseisaku@town.kikuyo.lg.jp までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡します。



さえき まなみ
佐伯 愛望さん
(16歳・武3町内)

- 趣味 音楽を聴くこと
- 自分の長所 途中で投げ出さず頑張ることができること
- 今一番やりたいこと ボランティア活動をしたい
- 空手の先生に伝えたいこと 小学生のころからお世話になっています。これからも頑張るのでよろしくお願いします

友達が好き

人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.67】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎(232)2113

◇印からの文章は、先生のコメントです。

「自分と重ね、行動する」

菊陽中学校 1年 西光 蓮

1学期の人権学習では、水戸社宣言を起草した西光万吉さんの思いや水俣病の差別を中心に勉強してきた。1年生での目標は「自分を見つめる」なので、そのことを常に考えながら学習した。
西光万吉さんは、どんなにくじけても仲間にも助けられ協力し合いながら、差別と向き合い闘ってきた。それは西光万吉さん一人だけががんばってきたことではないし、同じ思いの人の心を動かして、団結したからこそ、今のように平等な世の中になつたのだと思う。差別と向き合い、差別について考えた当時の人々は逃げなかったから良かったのだと思った。私は、たくさん思いを受け継ぎ、二度と差別をくり返さないために、自分の心の差別心と向き合うことの大切さを考えた。
今の私に差別心がないわけではない。やはり人を下に見たり上に見たりしている。小学校のとき、クラスメイトがいやな事をされているのを見て、差別している側の心がどれほど冷たくて自分勝手なのかと思つたが、自分も今、心の中で同じ事をしている。でも、この学習や先生の体験談を通して、自分中心すぎたと反省し、その人の価値観を理解することで世界が広がり、差別するの必要がなくなると思つた。これからは、逃げずに自分と向き合つていこうと思う。
クラスの中で私は、本音で向き合える人が多くなつてきた。入学したばかりの時は、確かなものか分からない情報を感じたり、過去のことがばかり気にしたり

して、水俣病のときと同じ偏見を持つていた。でも今日までたくさんクラスメイトと話してみると、それぞれの性格があり、新しい発見もあつて、偏見はよくないと思えた。外からの情報に左右されず、勇気を持って正しいことを自分から確かめに行くことがこんなに大切だったのかと実感した。
しかし、いまだに向き合えていない人もたくさんいる。まだ話せていない人、学校の先生、地域の方、そして一番身近な家族。私は今から人の事を知り個性を認めようとするところから始めて、たくさんの人と本気で向き合えるようになりたい。自分から行動していかないと何も変わらないので、その人自身の外側ではなく、内側、本当の心を見つつけ出せるようにしたい。
私は特に女子に対して、おかしいことを「おかしい」と自分から言えていない。気づいても、友だちや先生に相談して人に頼つて解決しようとしていた。それは、注意したことで差別されるのがこわかったからだ。水俣病の家族のことを話したすみれのお母さんは、自分から行動しようとしていた。だから私も、本当に大切なことを見極める心と勇気を持つてようになりたい。
これまで人権学習では、「差別は絶対にしてはいけない」とか、「差別をしていいる人がいたら注意する」などの表面的なことしか考えていなかった。しかし、中学校では自分のこととして考えるという目的がはつきりしているの、これからの人権学習でも、自分と向き合い、自分と重ね、行動できるような力をつけていこうと思う。だから、他人に文句を言う前に自分が行動していくべきだと思う。

菊陽町人権フェスタ開催

人権フェスタが9月13日、菊陽町図書館ホールでありました。



▲猿まわし芸人の村崎太郎さん

◇菊陽中学校の1年生の人権学習では「自分を見つめる」をテーマに取り組んでいます。水戸社宣言、みなまた学習を通して、西光さんの人権作文は、差別をなくすために自分を見つめることの大切さを伝えてくれています。



▲たくさんの人と本気で向き合いたい

菊陽句会報

きくよう文芸

官兵衛の菩提寺 秋の風	井 子文	露草の命の仕組み 美しくあり	井上久美子
萩の咲く風の通路 阿蘇の宿	財津 早雪	魔の夏や天変地異の怖さ かな	宮川ユキエ
カボス挽き鯛の塩焼き あつあつに	原野レイ子	台風の逸れし夕虹 阿蘇に懸け	曾我 育代
破れ翹む石の辺秋の蝶	力 幸子	雨多し日照不足の稲 愁ひ	曾我トモ子
裏庭にオーケストラや虫すだく	寺尾千代子	鞍岳に浮雲一つ 水澄めり	日高 妙子
蟻の動く餌離さぬ 覚悟見る	高橋 孝子	南瓜煮る 飢え知る人の 減りゆけり	紫藤 祥子
新蕎麦やてぎわのよさがひかりけり	福田 貴子	回想の独りの 浜辺 秋日傘	村上 朋子
S.Lの黒き車体や秋桜	堀川 妙子	図書館や避暑のつもりの大欠伸	藤本 純子
境界やごうやの蔓は意のままに	佐藤 節	通学路ゆらぐ 炎は彼岸花	佐藤 健
母忌日 精霊蛭蛉 親しかり	吉野 早苗	退院の部屋片付きて 涼しかり	佐藤 澄世

短歌会

わが登るこの坂道を遠き日に祖母は語りき坂のきつきさを
青刈の稲を刈り干す田圃には友のトラクター盛んに入出入りす
風鈴の音鳴り止まず吹く風におりおりきこゆ夕蟬の声
緑葉を風は揺らして吹き来れば小暗き窓に光動きぬ
山裾の尾花の原に昇りたる月凜として輝きわたる
下露に衣濡らして歩きたり心もかろき林の道は
庭に勢ふローゼルの花の咲き過ぎてジャム作る日の近づきて来ぬ
炎消えて父の手に紙幣現はれき心躍りし少年の日のこと

今村 貞子
梅田 國雄
河北 幸一
佐藤せい子
中村トシエ
松岡富紀子
山川 カヅ
松本 東亜